

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2394900035		
法人名	有限会社 愛和		
事業所名	グループホーム サンライフハートネス 1F		
所在地	愛知県日進市米野木町追鳥47-1		
自己評価作成日	平成28年1月14日	評価結果市町村受理日	平成28年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26番地 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成28年1月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

その人らしい生活の場となる様に家庭的で暖かい生活空間として過ごしていただけるように生活をサポートしています。ご家族とも連携をとりご利用者の方一人一人のペースに合わせた生活を提供しています。地域ボランティアの方、地域の保育園児との交流会など少しづつ外部の方と交流する機会を設けています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

秋の米野木祭りでは、地元の人達が馬を連れてホームによってもられ利用者との楽しい交流の機会となっている。ハーモニカ、日本舞踊、腹話術、傾聴ボラなどボランティアとの馴染みの関係性づくりに積極的に取り組んでいる。地元の図書館や、お食事処、回転寿司など日頃から外出、外食の機会が多く企画され、とても楽しいひと時となっている。玄関入り口、共用スペースには、花、絵が多数飾ってあり、明るく清潔感を感じられる空間となっている。一年を通して、季節を感じてもらえるよう、パーベキュー、花見、アレンジフラワーなどの企画も行われている。手先の機能や下肢の筋力低下予防のため、生活リハビリとして、調理の下準備、体操など利用者の機能向上のためのメニューも取り入れられている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人研修では理念についての資料を渡して研修という形をとっている	各フロアの目につきやすいところに理念が掲示されている。「愛をもって、人格の尊重を」に重きを置いて日々のケアにあたっている。新人研修等で、理念に沿ったケアができるように勉強会を実施している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に夏祭りにはボランティアで日本舞踊を行っていただきました。保育園児との交流会は今年一度行いました。その他にも様々な方にボランティアに来ていただいている また、お米は地域の方より購入している	利用者家族からの紹介で、お米は地元の人から購入している。近所の人から野菜をもらったり、地域の情報を得たり、良い関係性が築かれている。また、地元の園児や散歩時の中学生との交流など積極的なつきあいが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の認知症の方への理解はまだ得られていない部分もある。民生委員の方や包括の方にも協力して頂き、関わり合いも増えてきた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第3水曜日に行っている。色々な方からの意見や考えを聞かせて頂き施設に反映している	会議では、民生委員、包括支援センター職員、家族の参加が得られている。プロジェクトを使って日頃の利用者の近況報告を行っている。民生委員からは様々な地域の情報をもらい、日頃の運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険法改正時やその他介護関係の書類についてわからないことを教えてもらうことが多い	事故報告で、窓口を訪れたり、疑問に思った事は電話で相談したり、より良い関係性の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には行っていません。入所契約時には身体拘束の同意書を頂いています	日頃行っているケアが身体拘束にあたっていないかどうか研修で話し合い、職員の意識づけを定期的に行っている。利用者の安全第一に努め、家族を交えて相談をするなどして、対応方法を決めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者虐待については毎年必ず研修を行い、どのような行為が虐待になるかなどの内容で行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方は現在見えませんが職員は理解していく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に注意する点、重要事項については家人様に説明し、納得したうえで入所して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見や要望についてはできる限り施設に反映している	利用者との日頃の関わりの中から要望をくみ取るように努めている。言葉に出さない利用者にも働きかけの機会を多くとるようにしている。家族からは、毎月のサンライフハート便りで近況を報告し、面会時や電話で直接要望、意向を確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議などで職員の意見を聞き業務を進行しやすいようにしている。職員間での意見の食い違いなどは双方の話聞き改善できるように対応している	職員の意見を聞く場として、個人面談や毎月の会議を利用している。活発な意見交換が行われており、風通しの良い関係性を職員ヒヤリングにより感じる事ができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力、性格や勤務状況、利用者様のことを考えた支援、接し方などから給与や賞与を判断している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月違ったテーマの研修を行っている。穴埋め問題形式になっている資料を使っている。外部の研修については希望者のみ受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会や市が主催の連絡会、交流会にて意見交換を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約をする前にご本人様にも施設内の様子や雰囲気を知って頂くために一度見学に来ていただくようお願いしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所契約をする前に見学に来ていただきご家族が日常生活で困っている事やご本人様の普段の様子など聞かせて頂いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学に来られた際にご本人様の普段の様子など話を聞かせて頂いたうえでグループホームよりも在宅で支援ができそうである場合小規模多機能や訪問介護を薦めることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者に対し一方的な関係になるのではなくご利用者の意見を尊重するように職員に伝えている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者と家族との関係が希薄化することのないように面会や行事に参加していただくようお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者の制限は特にしていないので友人や知人が面会に来られることもある。ただし、ご家族に強い希望で家族以外の面会をお断りする場合もある	友人が定期的に訪ねてくる利用者がおり、関係継続のため、ホームに足を運んでもらいやすい雰囲気づくりに努めている。ハーモニカ、尺八、琴、オカリナ演奏のボランティアとの馴染みの関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルに関してはスタッフが間に入るなどして対応している 席の配置などで工夫を行っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も利用されていた方のご家族が施設へ来られたり、定期的に手紙を下さるご家族もいます		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握が難しい場合もありますが、本人様の表情であったり行動や仕草などで判断している	入浴時などの一対一になった時などに聞き取っている。聞き取れない人からは、表情やしぐさから読み取るようにしている。それらの思いは、利用者の個人のノートや申し送りノートに記載して、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所される以前の生活歴やサービスの利用状況などはご家族や他福祉サービスの担当者にお話を聞かせて頂く		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員はご利用者の日常の様子や心身の状況など把握し変化が見られた場合には職員から管理者に報告があり、管理者がご家族へ連絡している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月各フロア会議でご利用者の変化や個別ケアについて話し合いを行っている	利用者ごとに記載した情報を基に、月1回のフロア会議の中でモニタリングを行っている。家族からの意見、要望を聞き取り、話し合いの上で年2回、介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や介護記録、また排泄チェック表や水分・食事摂取表等で情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族対応で病院等受診する際に移動や移乗をすることが難しいご利用者に関しては送迎のお手伝いをさせていただくこともある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者のやる気や活性化を図る為、地域ボランティアを活用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診は希望された方に利用して頂いている。かかりつけ医がある場合には継続して受診して頂いている。気になることなどある場合はご利用者様の受診時にご家族の様子をお伝えしている	入居時にかかりつけ医を協力医に変更する利用者が大半であるが、専門医などの受診は家族が行っている。医療機関の間の情報共有は、個人の連絡ノートにより行われている。看護師による健康管理と共に月2回の往診が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の様子を把握し何か変化がある場合には看護師に報告している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に病院のケースワーカーの方と連絡を取りご利用者の様子を聞き早期退院できるようにお願いしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重度化、終末期に向けた方針は説明している。重度化した時のご家族の希望など確認はしているが現段階では考えられないという意見が多く、重度化した時に往診医よりご家族に直接今後予測されること等説明してもらっている	入居の際に、重度化、終末期についての説明を行い、今年度は看取りを2名ほど行っている。利用者の状態変化に合わせ話し合い、家族の意向の確認を取りながら支援している。職員の心の負担に考慮した管理者や職員間の声かけが行われた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は毎年研修を行っている AEDの設置も考えていますが購入には至っていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っています。災害時のマニュアルを研修として行っています	昼間の想定で、年2回避難訓練を行っている。利用者の階段を使つての避難や、消防署の水消火器を使った消火訓練が行われている。非常食、備蓄品の充実には、前向きに取り組む方向でいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者のプライバシーに配慮し、また人格を尊重した対応をしている。 職員の言葉かけなど気になることがあればその都度注意している	利用者一人ひとりに合わせた、親しみを表す中にも礼節を大切にされた対応を心がけている。声かけ方法や対応などで気になる時は、職員間で注意し合っている。利用者の写真についての取扱いは、入居時に許可をもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の思いや希望を伝えることの難しい場合にはこちらが予想をして希望に添えるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まっているが無理強いはず ご利用者のペースで生活して頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについて出来ない方は職員が手伝っている 月に一度は美容師の方に来て頂いてる白髪染めも希望により職員で行う事もある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は宅配してもらい職員が調理している。 簡単な野菜の下処理、テーブル拭き、食器拭きなどお手伝いして頂いている ご利用者の状況にもよりますが、月に一度外食を行っている	食材は、宅配を利用しており、利用者もできることを手伝って、調理や後片づけを行っている。月に1度は、回転寿司、和食、カフェなどの外食に出かけている。事業所内のバーベキューも、利用者の楽しみな行事である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の状況に合わせて食事形態、水分にはトロミ、種類を変えて工夫している。食事量、水分量は職員把握し、変化があれば往診医に相談している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行うように誘導している。出来ない方は職員介助を行っている。 今年は歯科医師に歯の検診をして頂きました		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、その方に合った誘導や声掛けを行いトイレでの排泄ができるように支援をしている	排泄チェック表をつけることで、パターンを知り声をかけ、トイレでの排泄に努めている。夜間は、センサーマットにより、トイレに誘導したり、時間をみてパット交換をしている。困難な状況にある利用者にも改善に向け、粘り強い働きかけを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員はご利用者の排便状況を把握し、水分(牛乳等)多めに摂って頂くよう声掛けをしている。 また、便秘によって不穏な状況になることなども職員に理解してもらっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回は入浴して頂いている。希望される場合には時間、回数問わず入浴することもできる。体調不良の場合などは清拭などで対応している	1階には、機械浴の設備があり、利用者の状態により選択できる。拒否のある人にも、声かけなどに工夫をして、入浴出来るようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の方の生活習慣に合わせて就寝して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が把握できるように内服している薬の一覧表を作成している。また、変化があれば申し送り、連絡ノートに記載し情報を共有できるようにしている。 誤薬などの危険性についても研修で行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の体操やレクリエーション、お手伝いなどご利用者に合ったことを取り組んでもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩や買い物レクで外出など行っている。また季節ごとに初詣やお花見などにも出かけている。	毎日散歩に出かけ、外気に触れる機会を持っている。初詣でや花見など季節の外出時には、外食も合わせ行い、喜ばれている。個別に近くの100円ショップやスーパーに出かけたり、全体でトヨタ博物館、東山公園などの遠方への外出も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理ができる方のみ財布を持っていただいている。大きな金額を渡さないようにご家族には協力して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればして頂いている。 また帰宅願望が強い場合にはご家族に連絡し、電話でお話して頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁にはレクで行った季節の工作や習字などを飾っている。過ごしやすくするためフロアの電気は真っ白な蛍光色を使うのはやめている。	玄関や色々な場所に、華やかなアートフラワーが飾られたリビングは、こだわりが感じられる調度品と共に温かみがあり、安らげる空間である。利用者の「家」であることを意識した雰囲気作りがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファを置いて一人になることもできるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には今まで使っていた生活用品を持ってきて頂いている。使い慣れたもの、思い入れのある物など持ってきて頂くことも可能。	居室ごとに壁紙とカーテンの色が違っており、利用者一人ひとりが、個性を持った部屋作りが出来るようにしている。愛着のある家具を入れ、家族写真を飾っている人など、居心地良い工夫がしてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る方には、居室の掃除やテーブルを拭いて頂いている。ご利用者の状況に応じてできることをすすめている。		